

道徳だより

能美市立寺井中学校

令和元年 12月23日(月)

NO. 5

◆11、12月の道徳をふり返って…

心のテーマ：思いやり(11月)、勤労・奉仕(12月)

体育祭では各学年とのつながり、合唱コンクールではクラス内でのつながり、と仲間とのつながりの中でそれぞれが成長が実感できた2学期も明日で終わり、冬休みとなります。3学期は3年生はいよいよ受験が始まり、1・2年生は次の学年に向けての準備期間となります。それぞれが自分のやるべきことにしっかりと取り組み、今年度をいい形で締めくくりたいですね。

さて、今回の道徳だよりでは、2年生と3年生の11月、12月の道徳の実践の中から、その内容や感想などを紹介します。

◇3年生の実践

「二通の手紙」 C(10) きまりを守る

動物園の職員だった元さんは、入園終了時刻を過ぎて入口に来た女の子と3、4歳くらいの弟を「今日は弟の誕生日だから」と泣き出さんばかりの姉の言葉に、親の同伴がないことも承知の上で入園させる。閉園時刻になっても二人が出てこないことに園内は騒然となったが、辺りが暮れかかった頃、二人が無事発見された。

数日後、姉弟の母親から「わたしたち親子にひとときの幸福を与えてくださったあなた様のことは、一生忘れることはできないでしょう。ありがとうございました。」という感謝の手紙をもらう。

その翌日、元さんは、もう一つの手紙である「懲戒処分」の通告をもらう。元さんは、二通の手紙を机の上に並べて、「この二通の手紙のおかげでまた、新たな出発ができそう」と晴れ晴れとした顔で自ら職場を去っていくのであった。

【生徒の感想】(一部抜粋)

- きまりの大切さがとてもよくわかりました。元さんの子どもたちへの優しさもすごいと思ったけれど、そう思えるのは最悪の事態が起らなかったから言えるのだと思いました。
- 今回は子どもたちは無事だったからよかったけれど、みんなが安全に動物園を回れるようにするための決まりを、職員は破ってはいけないと思いました。
- みんなが安全に暮らすためにルールがあるから、そのルールは絶対に破ってはいけないと思った。
- 今回は大事にはならなかったけれど、もし何か大変なことが起こっていたら、動物園への入園自体がダメになってしまうかもしれない。2人の幸せを思って元さんがした行動は、多くの人の不幸につながってしまう可能性があるし難しいなと思いました。
- ルールを守らないと、自分以外の誰かが困ることになると思いました。
- 子どもたちの喜ぶ顔が見たいと思ってルールを破ってしまった元さんの気持ちはとてもよくわかります。でも、やっぱりきまりは守らないといけないと思いました。
- 身近な交通ルールから守っていこうと思いました。ルールを破ったら罰せられるけど、罰せられるからルールを守るのではなく、安全のために守るのだと新たにわかりました。

→ 裏面へ続く



◇2年生の実践

「勸進帳」 B(6) 思いやり

※「ふるさとがはぐくむ道德いしかわ」より

兄・源頼朝に謀反の疑いをかけられた義経たちは、京を追われ、弁慶らとともに奥州へ逃げようとしていた。義経一行をなかなか捕えられない頼朝は、各地に臨時の関所を作った。その一つが安宅の関である。安宅の関では、関守・富樫が山伏の姿に化けて関所を通ろうとする義経一行を待ち構えていた。富樫に通行を止められた弁慶は機転を利かせて、東大寺を再建するため勸進を行っていると話す。すると富樫は、勸進帳を読むよう命じる。もちろん勸進帳など持っていない弁慶は、白紙の巻物を開くと、それを本物と見せかけてすらすら読んでみせた。その後も一行は山伏を演じきり、関所を通る許しを得る。しかし、ふとしたことから義経一行ではないかと疑われてしまった。緊迫した状況のなか、弁慶は疑いを晴らすため、主人である義経を何度も金剛杖で打ち据える。いつしか弁慶の目には涙が光っていた。打ち据えられている義経の目にも涙が光るのが見えた。この時代、家来が主人に暴力を加えるなんてことは絶対に許されることではない。その様子をじっと見つめる富樫にも信じられない光景であり、富樫の目にもいつしか涙があふれていた。

義経たちを通したことが頼朝にばれると富樫の命はない。しかし、富樫は何かを悟ったかのように、山伏の一行を静かに見送る。

【生徒の感想】（一部抜粋）

- 弁慶と義経との間には強い絆があったのだと思いました。その関係に感動したし、自分が切られるかもしれないのに、義経を通した富樫も深い情をもった人だと思った。
- 弁慶はとても勇気のある人だなと思いました。そして義経を守るために行動していて、とても優しい人だと思ったし、私も「仁の心」を持てる人になりたいです。
- 3人がなんで涙を流していたのかが分かりました。「仁の心」とは思いやる心や、相手への敬意の心だということが分かりました。
- 3人には「仁の心」があり、それは人を思いやり、人のために何かをすることだということがわかった。自分も3人のように、これからこの心を大切に生きていきたい。
- 仁の心とは相手のことを思いやる気持ちだと思った。3人とも自分の命が危ない中で相手を思い、命をかけていてすごいと思った。
- 周りからみたら上下関係の立場だけど、弁慶と義経の間には信頼でき、友人や家族のような関係があったことが分かった。弁慶の守るための行動がすごいと思った。
- 仁の心とは、人のことを思いやる気持ちだと思いました。弁慶が義経を叩いてまで守ろうとする義経に対する忠誠心がすごいと思いました。
- 3人の中に仁の心がめばえたことから、仁の心とは誰かを思う気持ちだと思いました。弁慶が主人に暴力してまで主人を守ろうとする姿に感動しました。
- 自分の命を捨ててまで義経を守ろうとする弁慶や自分の命を捨ててまで2人を通す富樫がすごいと思った。仁の心とは自分のより人のことを優先する心だと思った。



智・仁・勇の像（小松市安宅町）